マテリアリティ

社会課題解決を支える取り組み

TOPICS

■ 知的財産戦略 …… p200

■ CS品質の磨き上げ …… p202

■ サステナビリティ貢献製品創出・拡大に向けて …… p211

社会課題解決貢献力向上のための教育 …… p211

社会・SDGs貢献活動 …… p218

社会課題解決を支える取り組み

長期ビジョン実現の鍵となるESG経営の重要課題（マテリアリティ）の強化に向けた取り組みを推進しています。

知的財産戦略

基本的な考え方

研究開発活動の成果としての「知的財産」は、企業価値の最大化に向けて積水化学グループの成長・収益を支える重要な経営資源と考えています。そのために、自社事業を支える戦略的な知的財産の確保、取得した知的財産の維持管理に努めています。一方で、他者の知的財産を侵害しないよう適宜調査を行うとともに、他者の知的財産侵害に対する回避・予防策などの適切な措置をとっています。
次期中期経営計画では、特許資産価値を示す指標である、Patent Asset Index™（PAI）を参考として、活動に取り組みます。

目標

各カンパニーでは、知的財産部門と事業部門、研究開発部門とが常時連携することで、それぞれの事業領域の特性に基づき、競合他社に対する競争優位性を図ることで自社事業の拡大・成長へとつなげる知的財産活動を推進しています。
コーポレートでは、全社共通の知的財産戦略の企画・推進を行い、全社の知的財産の最適化を目指しています。

体制

当社グループではカンパニー制に対応し、カンパニーごとの事業環境に則した迅速な活動推進ができるよう、コーポレートとカンパニー各々に独立した知的財産部門を設けています。
また、知的財産部門の活動状況は、R&D委員会において定期的にモニタリングしており、経営トップを交えた議論を実施しています。

主な取り組み

知的財産の確保に向けた戦略的な活動

当社グループでは、技術の「際立ち」を最大限に活かし事業へ貢献させるべく、特許情報だけでなく事業活動に関わる幅広い非特許情報にも拡張した知的財産情報、市場、競合情報など取り巻く競争環境を分析したうえ、適切な戦略構築や知的財産ポートフォリオマネジメントなどの戦略的な知的財産活動を推進しています。

知的財産に関する従業員教育

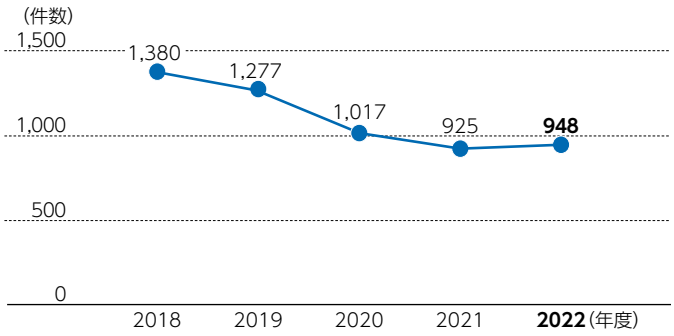
自社の知的財産の維持管理や、他者の知的財産侵害に対する回避・予防などを、開発者一人ひとりが確実に実施するために、基礎知識の習得から戦略構築まで、開発者のレベルに合わせた複数の教育プログラムを用意し、全社で知的財産に対する教育活動を実施しています。

発明に対する正当な評価

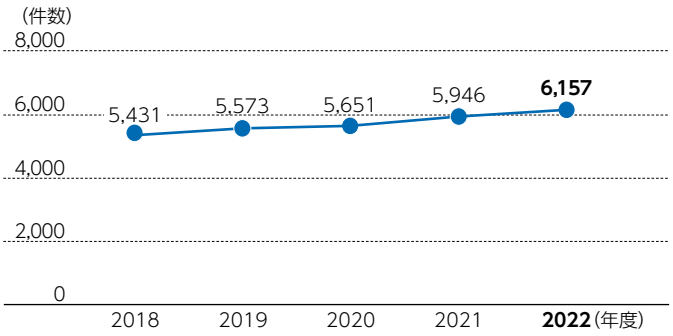
職務発明に対する各種報奨金の支給に加え、研究者・技術者への評価・処遇の一環として「発明大賞」制度を設けており、利益貢献の特に大きな職務発明に対しては、その発明者の功績に報いる報奨金を支給しています。

パフォーマンス・データ

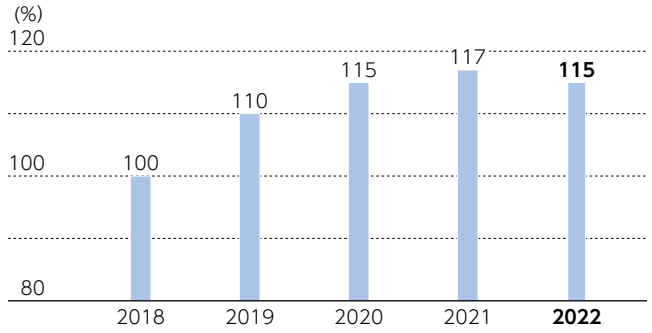
特許出願件数



特許保有件数



特許資産価値(Patent Asset Index™) 成長率



※LexisNexisの特許分析ツール PatentSight®を用いて算出される、
Patent Asset Index™の5年前数値を基準とした成長率
※Patent Asset Index™ とは法的状態が有効なそれぞれの特許に対して、
被引用件数をもとに算出した「技術的価値」と、
出願国などにより算出した「市場的価値」を掛け合わせた、
特許の総合評価指標であり、それらを合算し、特許の資産価値を示している

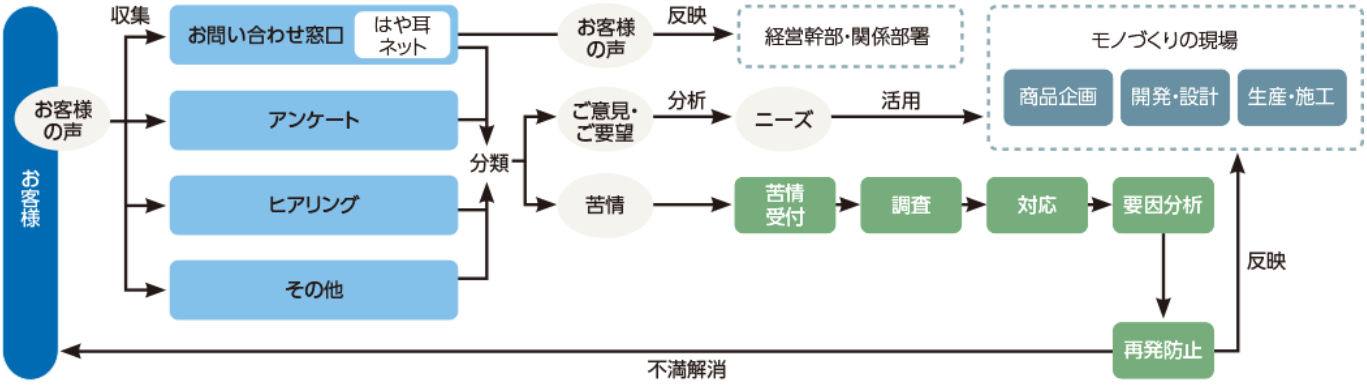
CS品質の磨き上げ

基本的な考え方

積水化学グループは1999年から、お客様満足（CS）に重点を置くCS経営に取り組んできました。
2004年からは、「CS」と「品質」を不可分なものという考えのもと、継続的に当社グループを選択するに足る価値を常に提供する「CS品質経営」に取り組んでいます。
「モノづくりのはじまりはお客様の声から」のキャッチフレーズのもと、「人の品質」「仕組みの品質」「モノ（製品とサービス）の品質」の磨き上げに積極的に取り組むことで、グループ一丸となって「指名され続ける品質」の実現を目指しています。
現中期経営計画では、ロードマップに記載の通り、「品質コンプライアンスリスクの極小化」「CS品質対応力の維持・強化」「CS品質基盤の変革」の3つに取り組んできました。次期中期経営計画においては、「モノづくりリスク極小化」と「モノづくり基盤強化」を掲げ、DXを活用したデータ堅牢化やCS品質情報のナレッジ化、海外CS品質人材の育成、グローバル基盤品質（QMS）の確立に取り組みます。

積水化学グループのCS品質経営の循環図

「お客様の声を経営に活かす」フロー



積水化学グループ「CS品質経営方針」はこちら　P265

目標

現中期CS品質経営取り組みロードマップ

			2020年度	2021年度	2022年度
品質コンプライアンスリスクの極小化	品質データ不正・改ざん防止※1		現状整理・要件定義	システム構築・運用	
	設計・開発段階からの不具合未然防止※1		開発者/レビューア育成研修		
			新事業のDR仕組み構築・試行		新事業のDR仕組み運用・改善
CS品質対応力維持・強化	CS品質人材グローバル育成仕組み構築	CS品質意識の浸透と維持	従業員CS品質アセスメントの実施とフィードバック	組織活動フォロー（対話による課題解決支援）	
		改善活動の質の変革※1	グループ改善活動ガイドライン策定	グループ改善活動ガイドライン全社展開	ガイドライン浸透（実践事例共有）
		改善活動自立化※1	指導者育成プログラム開発	指導者育成プログラム試行検証	指導者育成プログラム展開
		改善活動モニタリング※1	既存モニタリング項目とガイドライン内容の融合	融合した新指標によるモニタリング	
	CS品質教育体系構築	お客様の声の収集と活用の強化	探索 / 社内アンケート・インタビュー	収集と活用に関する研修と組織横断の情報共有強化	
		手引き書に基づいたCS活動の推進	CS基礎研修（電話応対、CS風土づくり）（随時）		
CS品質基盤の変革	新QMS体系構築と効果的運用	製造の基礎力強化※1	SPMC※2導入拡大と活用の底上げ	SPMC※2の効果的活用方法の再構築・浸透と定着	
	CS品質情報のデジタル化推進	品質不具合ナレッジシステムの構築※1	現状把握・調査	試行・拠点展開	

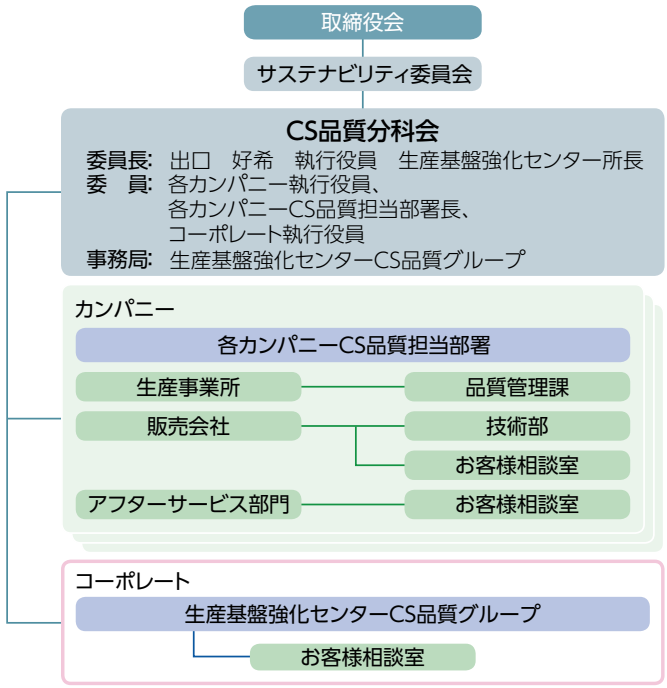
※1 詳細は「ガバナンス（内部統制）」品質　P46参照
※2 SPMC（セキスイ・プロセス・マネジメント・チャートの略）

体制

サステナビリティ委員会の下部組織としてのCS品質分科会

当社グループでは「CS品質」に関して、サステナビリティ委員会およびその下部委員会であるCS品質分科会を、それぞれ年2回開催しています。2022年度のCS品質分科会は、10月と3月に計2回開催しました。

CS品質経営　推進体制



主な取り組み

お客様の声の収集と活用の強化

アンケート調査 活用実践研修

お客様の声の収集・活用の仕組みを強化するため、2021年度から、各事業の担当者がアンケートの設計、分析方法を習得・運用できる様に研修を実施しています。
2022年度は、対象を2021年度の品質保証担当から拡大し、営業や開発等さまざまな職種を対象とし、アンケート設計・分析スキルの向上を図りました。

手引書に基づいたCS活動の推進

お客様相談室の電話応対力向上

当社グループのお客様相談室では、お客様の声を経営に活かすべく相談員一人ひとりがお客様への応対力向上に努めています。2022年度も引き続き電話応対検定の結果で指摘を受けた改善点をもとに業務の改善に取り組みました。

グループ各部門の社員を対象とした電話応対研修の実施

お客様満足向上の一環として、お客様相談室ではお客様との電話応対技能をグループ各部門に水平展開すべく、相談員が講師となって電話応対研修を実施しています。
2022年度は、映像教材による事前学習とリモートによる実践に即したロールプレイングを組み合わせたオンライン研修などを、3事業会社に対して実施しました。また、ビジネスメールのe-ラーニング研修も継続して実施しています。

その他の継続活動

CS品質セミナー

CS品質セミナーとは、CSや品質に対する意識向上のために、お客様満足に関する事例や、お客様満足を提供できる組織・人づくり等、幅広いテーマに関する社外有識者をお招きして開催する社内講演会です。2001年度の初回から数えて、2021年度末までに計62回開催しています。
2022年度は、コロナ禍で変わる組織や個人の在り方に着目し、組織変革やリーダーシップといったテーマで開催いたしました。

●「だから僕たちは、組織を変えていける
　～半径5メートルからチームを変える～」
ビジネス・ブレークスルー大学　教授
斉藤　徹 氏
（2022年8月26日）

●「いま磨き上げるべきリーダーシップ」
法政大学経営大学院　イノベーション・マネジメント研究科　教授
慶應丸の内シティキャンパス　客員コンサルタント
高田　朝子 氏
（2023年2月20日）

STAR55通信

当社グループでは、創立55周年を迎えた2002年から、全社CS浸透プログラム「STAR55」活動を実施しました。この活動を継続していくために、2006年から当社グループのCS品質好事例を集めた「STAR55通信」を創刊し、2021年度末までに47号を発行しています。
2022年度は、9月と3月にそれぞれ発行し、全国の現場におけるCS品質活動を紹介しました。

●STAR55通信　48号
（2022年9月）

●STAR55通信　49号
（2023年3月）

※『STAR55通信』の由来

S=Sekisui（積水）、
T=Trust（お客様の信頼）、
A=Action（行動）、
R=Revolution（改革）
STAR=主役 55=創立55周年

「STAR55」という名称には、積水化学(Sekisui)グループの一人ひとりが、お客様の信頼(Trust)を得るための行動(Action)を約束し、グループの体質・風土を改革(Revolution)していこう、各人が主役(STAR)になっていこうという意味が込められています。

VOICE

当社グループのお客様相談室には、毎年1年間で7,000～10,000件ほどのお問い合わせ・ご意見などが寄せられます。これらのお問い合わせ内容に対して真摯に回答することはもちろん、問い合わせに至ったお客様の動機を独自に分析することで、お客様の「見えないニーズ」の発掘を目指しています。
2015年度からは、全従業員へのCS品質風土の醸成や、担当事業以外への理解の促進等をねらいに、お客様相談室に寄せられた声をまとめた『VOICE』を、年一度発行しています。
2022年度は、各カンパニーともお客様の声を基に開発した商品・サービスを取り上げた「事例インタビュー」を掲載しました。多くの社員が閲覧できるよう、リモートワークも考慮し、イントラネットで公開しました。

住宅カンパニーお客様アンケート

当社グループの住宅カンパニーでは、セキスイハイムをお建て頂いたお客様を対象に満足度アンケートを実施しています。いただいたお客様のご意見は、社内で広く情報共有し、商品開発やお客様へのサービス向上に活かしています。さらに、ご不満をいただいたお客様のご意見については、詳細を分析して改善し、ご不満を満足へ変えていけるように取り組んでいます。2022年度は「大変満足」と回答されたお客様が83%となりました。

「消費者志向自主宣言」フォローアップ活動

当社は、消費者庁が進める「消費者志向経営」の実現に向けた取り組みに賛同し、当社の考え方や取り組み方針を表明する「消費者志向自主宣言」※を2017年1月に実施しました。

※ 企業が自主的に消費者志向経営を行うことを宣言し、宣言内容に基づいた取り組みを行うとともにその結果をフォローアップして公表する活動。

消費者志向経営

「消費者志向経営」についての詳細は消費者庁のWebサイトをご覧ください。
https://www.caa.go.jp/consumers/consumer_oriented_management/

「消費者志向自主宣言」をもとに取り組んだ活動

当社グループでは、CS品質経営を掲げ「お客様の声」を貴重な経営資源として位置付け、「モノづくりのはじまりはお客様の声から」をモットーに「人の品質」「仕組みの品質」「モノの品質」の革新に積極的に取り組んでいます。お客様や社会に対し新しい価値を提供し続けることで、安心で豊かな社会の実現に貢献します。
「消費者志向自主宣言」をもとに2022年度に取り組んだ活動は、以下の５つです。

1. 基盤品質の確保

商品開発の段階から設計・生産・販売に至るプロセス全般にわたる「品質保証体系」を構築し、品質保証の体制を整え、設計開発管理、日常管理活動を推進しています。
また、各職場で少人数のグループをつくり、品質や生産性の改善等の各種テーマに取り組む「グループ改善活動」を国内外のグループ会社で展開・推進しています。

2. 魅力品質の創出

魅力品質創出のヒントとなるよう、社内の有識者や事例を紹介する「CS品質セミナー」を年２回開催しています。また、当社グループ内の事例を紹介する「STAR55通信」や「VOICE」も、魅力品質の創出に寄与すると考えています。

3. 技術力の磨き上げ

新製品の開発にさいしては、品質問題の発生を未然に防止するため、効果的かつ効率的な未然防止手法を習得することを目的とした各種セミナーを開催しています。
さらに、プロセスアプローチの考え方に基づきQMSの効果的運用を行っています。特に内部監査において、積水化学独自の評価ツールであるSPMC（セキスイ・プロセス・マネジメント・チャート）を活用できるよう、浸透活動を推進しています。

4. コミュニケーションの充実

当社グループの各事業におけるCS品質好事例を紹介する「STAR55通信」や、お客様相談室に寄せられる問い合わせ情報をもとに掲載した冊子「VOICE」を発行し、グループ従業員に配布しています。

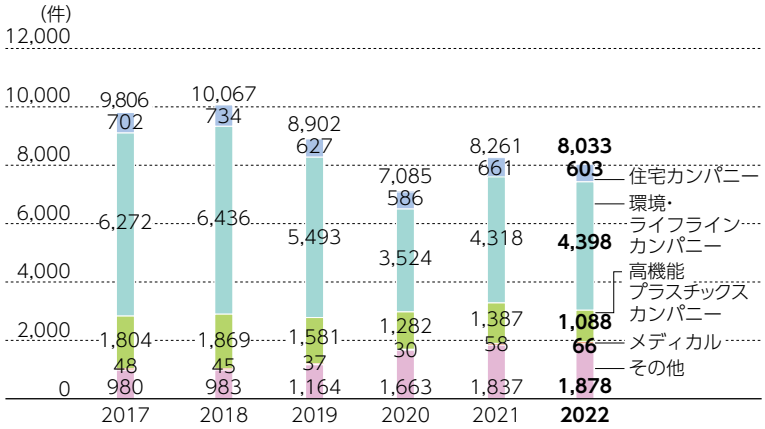
5. 従業員教育の徹底

新入社員や新たに管理職となる人に向けて、CS品質に関する研修を毎年行っています。新入社員を対象とした研修では、当社グループの「CS品質経営」の考え方や、お客様に満足いただくための日常業務における行動について考えています。新たに管理職になる人を対象とした研修では、管理職になるにあたり、部署としてどうCS品質を実現するかを考えています。

パフォーマンス・データ

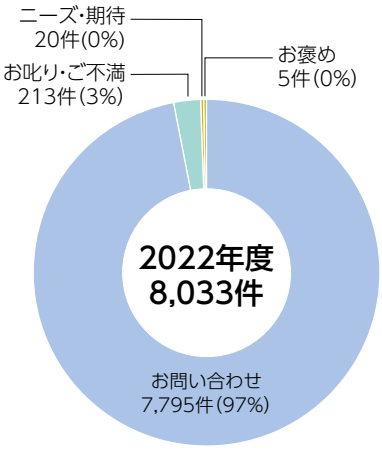
お客様相談室の対応力向上に関するデータ

2022年度　お客様相談室入電実績



指標	算定方法
お客様相談室入電実績	電話、メール、お手紙等による問い合わせ件数

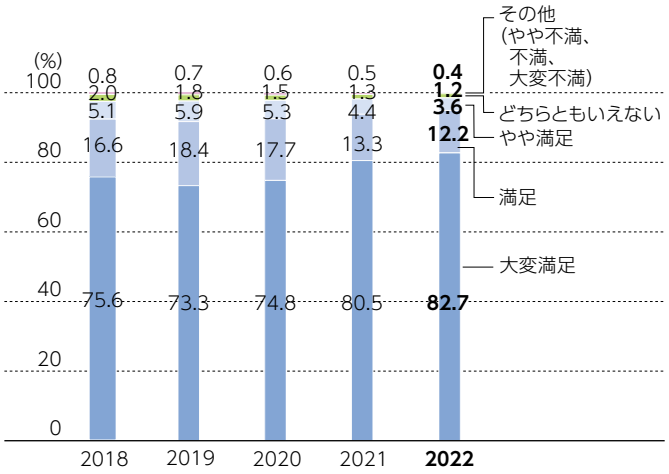
入電の内訳（積水化学）



指標	算定方法
入電内訳	入電内容を「はや耳ネット」に登録し以下製品のように分類 ・お問い合わせ：積水化学グループの商品の仕様や使い方、施工方法、販売店、修理等のサービスに関するお問い合わせ案件 ・お叱り・ご不満：お客様から積水化学グループの製品・サービスや対応にご不満の言葉をいただいた案件 ・お褒め：お客様から積水化学グループの製品・サービスや対応にご満足の言葉をいただいた案件 ・ニーズ・期待：お客様からの積水化学グループの製品・サービスに関するご要望(製品改良や新製品等)や営業活動につながるお問い合せ、また、当社に対する期待の声等のお問い合わせ案件 ※「はや耳ネット」：お客様相談室へ寄せられた入電内容をリアルタイムに公開している積水化学グループのイントラネットサイト

お客様アンケートに関するデータ

CSアンケート 7段階評価（住宅カンパニー）



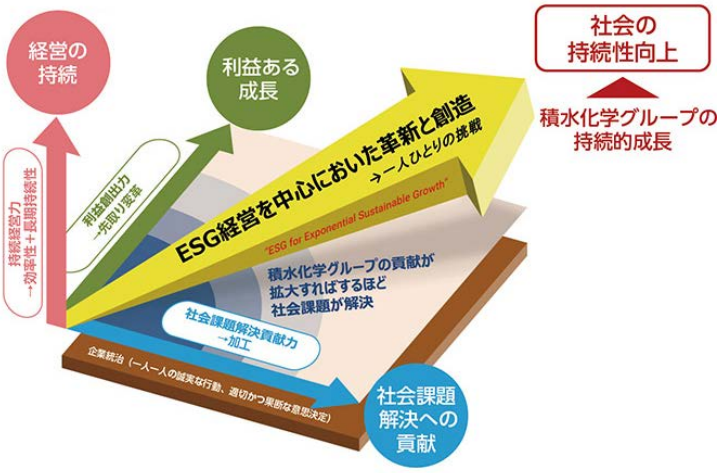
サステナビリティ貢献製品創出・拡大に向けて

社会課題解決貢献力向上のための教育

基本的な考え方

社会課題解決力の向上のための教育の推進

サステナブルな社会の実現に向けて、積水化学グループは「社会課題解決への貢献」と「企業成長」を両立させるためには、「持続経営力」「利益創出力」「社会課題解決貢献力」が重要だと位置付けています。
サステナビリティ貢献製品の創出と市場拡大を加速するために、従業員が社会課題の解決に貢献していく力（=社会課題解決貢献力）を伸ばすことを中心に、持続経営力や収益創出力につながる思考ができるような教育を提供していきます。



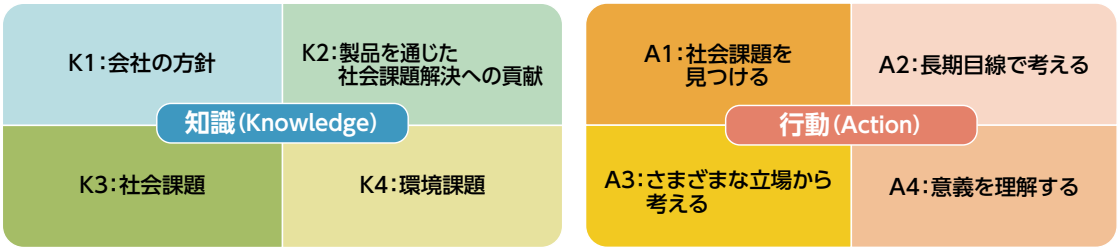
サステナブルな社会の実現に向けた経営の考え方

教育の長期推進イメージ

従業員の現業での経験を通じた成長を後押しすることに加えて、課題解決を認識し、行動する力を育てる教育を実施しています。知識面での教育に加え、社会課題の解決（=SDGs）を念頭に置いた活動を従業員が主体的に行うことにより、意識の変容を図ります。さらに、社会課題解決貢献力を向上させる活動（=SDGs貢献活動）によって行動面からも変革を後押していきます。

社会課題解決に貢献する力を伸ばす教育のイメージ

社会課題解決に貢献する力を伸ばすためには、知識と行動のレベルを向上させていくことが重要と考え、それぞれを８項目（知識４、行動４項目）で整理しています。教育や活動などのプログラムによって、これらの知識、行動力がどのように向上しているかを確認しながら、弱点を補強し、強点を伸長させる教育・活動を推進しています。



K…Knowledge（知識）　A…Action（行動）

社会課題解決に貢献する人材に必要な知識、行動

環境中期計画における社会課題解決貢献力向上の教育の考え方

「実践」に向けての変革を支援するプログラム

現中期計画は、「各社会課題への気づき、理解、行動、成果創出」を図るためのインプット段階と位置付けていました。インプット段階での効果を確認し、実際に社会課題・環境課題に対して、気づき、参画し、知り、理解し、考え、行動し、解決に向けた製品・サービスを創出する発展段階へと教育を移行させました。そしてこのプロセスによって、事業や業務を通じて社会課題・環境課題の解決に資する成果を創出する人材を育成してきました。
次期中期計画からは、ベースとなる社会課題に関する知識や情報をインプットする教育を継続しつつ、社会課題解決に向けた製品・サービスを創出する発展段階の教育をより充実させていきます。

目標

現中期目標（2020-2022）：人材の社会課題解決貢献力指標のベンチマーク把握、10ポイント向上

体制

現中期経営計画における社会課題解決貢献力向上の教育推進体制

下記のようなPDCAを回しながら、従業員の社会課題解決貢献力を向上させる教育を推進しています。

Plan：2050年の環境長期ビジョンから「あるべき人材像」を描き、その人材像に到達するためのマイルストーンを設定し、知識と行動力を伸ばすために必要な教育体系を構築しています。

Do：教育体系に基づいた教育プログラム（啓発冊子やe-ラーニング、社外講師を招いたオンラインセミナーなど）を定期的に企画、実施しています。

Check：従業員の社会課題解決に必要な知識や行動の現状を把握し、自己研鑽を促すため、個人の進捗の目安となる人材指標を構築し、2021年度より運用を開始しました。
従業員を対象に、この指標を活用した社会課題解決貢献力を測るアンケート調査「社会課題解決貢献力チェック」を定期的に実施。社会課題や環境課題に関する知識、行動における強みや弱点、社会課題解決貢献力の伸長を把握しています。

Action：「社会課題解決貢献力チェック」の結果により、目指す姿と現状とのギャップを認識し、弱点を補強するための教育プログラムを企画、実施しています。また、その結果を次期中期計画における教育体系構築時に反映させていきます。

今後も人材指標を活用してPDCAを回しながら、社会課題解決貢献力向上のための教育を継続して進めていきます。

社会課題解決貢献力向上の教育推進体制

主な取り組み

人材の社会課題解決貢献力指標の運用

従業員の社会課題解決に必要な知識や行動の現状を把握し、自己研鑽を促すため、個人の進捗の目安となる人材指標を構築し、2021年度より運用を開始しています。
2021年度はベンチマークを把握し、22年度はベンチマークから10ポイント向上させるという目標を立てて、半期に1度国内の従業員を対象に、「サステナブルな社会の実現に向けて、LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造」（Vision2030）していくために必要な社会課題解決貢献力を測るアンケート調査「社会課題解決貢献力チェック」を実施しました。
セルフチェックではありますが、「知識」に関してどこまで知っているか、あるいは課題解決につながる「行動」をとっているか、などの質問を定期的に問うことで、社会課題解決の貢献に対しての自己認識がどの程度向上したかを測ります。自己認識が向上すると、各人の業務においても社会課題解決への貢献を意識して活動することができるようになると考えています。
2022年度もこの指標によって社会課題や環境課題に関する知識、行動における強みや弱点を把握することができました。結果に応じて弱点を補強し、強みを伸長させる教育プログラムを推進することにより、効果的な人材の育成を実施しました。

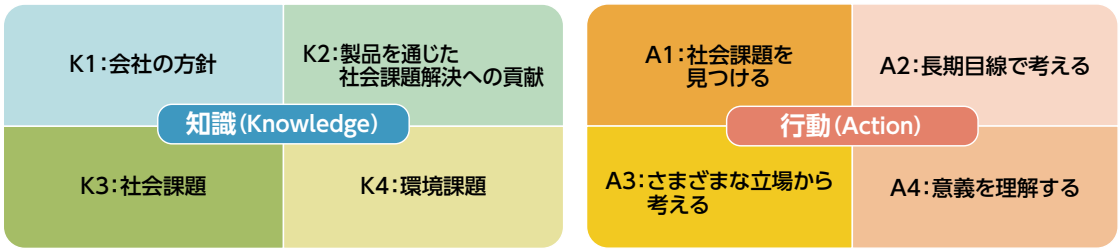
＜2022年度の社会課題解決貢献力チェック　結果＞
全社の平均点は39点☑で、目標の51点に到達することはできませんでした。
職責別に確認したところ、経営層と管理職は概ね目標を達成していましたが、専任担当職が未達でした。
また、「知識」のポイントは向上しましたが、「行動」ポイントは上がらず、行動変容に課題があることがわかりました。
今回の調査結果を参考に、次期中期計画では職種や職責に応じた層別の教育を計画し、行動変容を促す教育研修を企画、実施していきます。

社会課題解決貢献力チェックの点数の算定基準

定義	積水化学グループの国内の全従業員のうち、アンケート調査に回答した従業員の回答結果を計算 職責は人事情報をもとに、経営層（取締役および執行役員）、管理職（基幹職以上）、専任担当職に分けて集計を行った
算定方法	知識、行動：各設問の選択肢に重みづけをして配点 回答者一人一人の合計点数を算出し、平均化
算定範囲	積水化学グループの国内の全従業員のうち、アンケート調査に回答した従業員

社会課題解決貢献力向上のための教育プログラム（2022年実施内容）

	プログラム名	対象		教育カテゴリー							
				知識				行動			
		国内	海外	K1	K2	K3	K4	A1	A2	A3	A4
1	社会インフラ強靭化について学ぶe-ラーニング	○	○	●	●	●		●	●		●
2	新入社員研修(環境)	○		●	●		●		●		●
3	環境関連の時事情報配信①	○			●		●	●	●		
4	SDGsを企業事例から学ぶe-ラーニング1	○		●	●	●	●	●			
5	外部講師によるWeb講義 環境課題の最新動向1	○					●	●	●	●	
6	外部講師によるWeb講義 環境課題の最新動向2	○					●	●	●	●	
7	環境関連の時事情報配信②	○			●		●	●	●		
8	社会的責任を認識するe-ラーニング	○		●					●	●	●
9	新任基幹職研修(環境)	○			●		●		●		●
10	SDGsを企業事例から学ぶe-ラーニング2	○		●	●	●	●	●			



K…Knowledge(知識)　　A…Action(行動)

・弱点補強教育の実施

2022年に国内の従業員を対象に実施した「社会課題解決貢献力チェック」において、点数が低かった項目（弱点）を補強するプログラムを実施しました。

(1) 環境関連時事トピックスの配信

新聞やインターネットで気候変動や資源循環に関するニュースが頻繁に取り上げられていますが、これらがどのような環境課題に関連し、どのような解決策が有効かを従業員に知ってもらうように、環境関連の時事トピックスを配信しました。
今起きている環境課題を知り、解決手段を考える一助となるように、国内外の企業のさまざまな取り組みを紹介しました。

配信	トピックス	内容
第1回目	「価値ある資源」を再生する産業	サーキュラーエコノミーについて学ぶ
第2回目	「再生可能な資源」への着目	「枯渇の恐れがある有限な資源」を代替する資源について学ぶ

環境関連時事トピックスの配信例

（2）社会的責任を認識するe-ラーニング

2022年上期に実施した「社会課題解決貢献力チェック」では、「社外からの評価や、リーディングカンパニーとして果たすべき社会的責任を認識している」という項目の点数が低い傾向にありました。この弱点を補強するため、ケーススタディを通じて、社外からの評価の捉え方や社会的責任について学ぶことを目的としたロールプレイング形式のe-ラーニングを行いました。

ケーススタディ３：サーキュラーエコノミー

回答必須

以下の文章を、あなたはどの人物の意見に近いか、を考えながら読んでください。

【ケーススタディ】

A社では、新入社員の初心 太郎（しょしん たろう）さんから、先輩たちにチャットで相談がありました。

初心 太郎さん

お疲れ様です。
お客様とのやり取りの中で疑問に思ったことがあり、ご相談です。

先日、『製品を使い終えた後について、貴社ではどんな工夫をしているの？』と、お客様に聞かれてその場で答えられなかったのですが、『きちんとSDS※を準備していますので記載事項を遵守してください』と回答すれば良かったでしょうか？

知識が誤っていないか、また、お客様のご質問の真意をとらえられているかも不安で、念のため相談させていただきました。アドバイスをお願いします。

※SDS：
「安全データシート」のSafety Data Sheetの頭文字をとったもので、事業者が化学物質及び化学物質を含んだ製品を他の事業者に譲渡・提供する際に交付する化学物質の危険有害性情報を記載した文書

相談のチャットを見た先輩たち（仕事 一さん、経営 投資子さん、評判 好江さん）が、それぞれ反応しています。

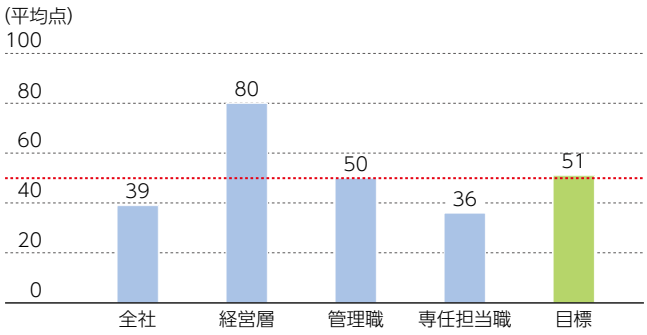
仕事 一さん

初心さんが疑問に思っている点について、私はお客様の真意が違うところにあると思う。使用済みの製品を回収しているのか、ってことじゃないかな。最近こういった質問が増えてきたように感じるよ。

社会的責任を認識するe-ラーニング

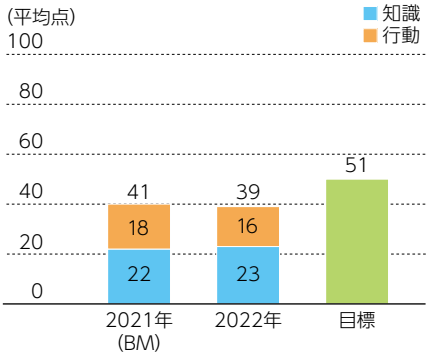
パフォーマンス・データ

2022年度　社会課題解決貢献力チェック　平均点

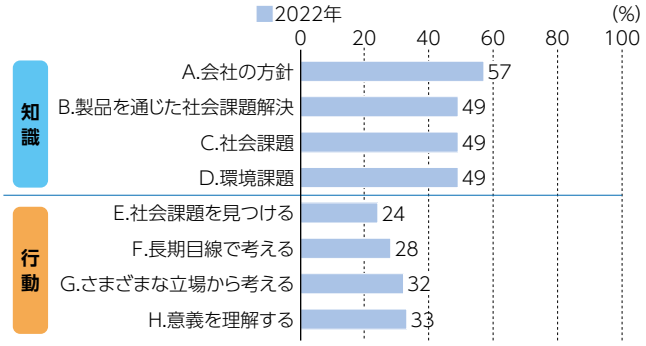


※ 点数の算定基準についてはP214を参照

全社平均点の内訳（知識、行動）



分野別　目標までの到達度（%）



社会・SDGs貢献活動

基本的な考え方

SDGsを視点にして社会貢献活動を推進

積水化学グループは、事業活動を通じた社会課題解決への貢献にとどまらず、社会と関わるさまざまな側面においても企業の特性や資源を活かした社会貢献活動を進めています。活動の柱として、“環境”“次世代”“地域コミュニティ”を主要3分野と位置付けるとともに、グループで取り組んでいる社会貢献活動の中で、SDGsの目指している持続可能な社会づくりにつながる活動を「SDGs貢献活動」と定義して推進しています。

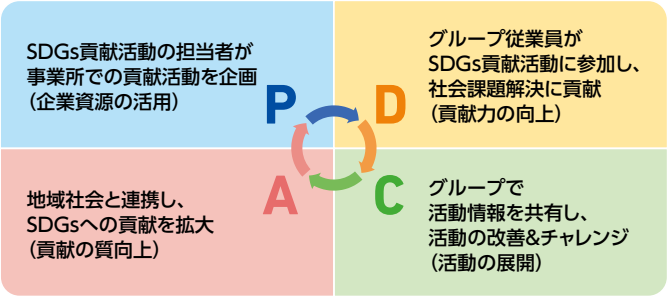
社会課題解決に貢献する力を伸ばす「行動」として

社会課題解決に貢献するためには、SDGsの認識は不可欠であると考えます。SDGsを視点にして社会貢献活動に取り組むことで、グループ全体で社会課題解決に貢献する力を向上させていきたいと考えます。社会の一員として社会課題解決のためにどんなことができるのか、SDGsを「道しるべ」として、身近なことから行動につなげていきます。

体制

SDGs貢献活動をグループ全体で展開

推進体制としては、国内外グループ各社の担当者とESG経営推進部が連携して、SDGsの認識浸透を図りながら事業所や従業員による自主的な「SDGs貢献活動」を展開しています。
活動のPDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルを回しながらSDGsに貢献する企業風土を醸成し、取り組みを推進する人材を育成しています。



「SDGsチャレンジ」で活動を活性化

グループ各社のSDGs貢献活動に関する情報発信や、担当者とのSDGs関連情報の共有化など積極的に意識啓発を行い、SDGsへの理解や社会課題への関心が高まるよう地道な取り組みを進めています。
2022年度は担当者向けに参考資料（活動の手引き）を作成し、研鑽のための勉強会を実施しました。
また、事業所で実施した活動を改善したり、新たな活動プログラムに挑戦してみようとする取り組みを「SDGsチャレンジ」として応援することで、活動の活性化を進めています。

2022年度の活動結果
SDGs貢献活動として、122件の取り組みが国内グループ事業所で実施され、そのうち41件は「SDGsチャレンジ」の活動でした。
活動内容を分析すると、SDGs17（パートナーシップ）やSDGs12（生産・消費）、SDGs4（教育）、SDGs11（まちづくり）、SDGs15（陸の豊かさ）への貢献につながる点が多かったのが特徴でした。
今後もSDGsを視点にした社会貢献活動を通じて、社会課題解決に貢献していきます。

環境

主な取り組み

森林・里山の保全や外来種防除の活動、環境美化、環境教育など、地域社会の自然環境を保全する取り組みを促進し、SDGs目標の達成に貢献します。

社会の基盤となる自然環境の保全に貢献

積水化学グループでは、「SEKISUI環境サステナブルビジョン2050」で掲げている「生物多様性が保全された地球の実現」に向け、自然環境の保全に取り組んでいます。NPO団体等との協働を通じて、自然保護活動など地域の環境に関する社会貢献活動を各地で展開するとともに、優れた活動を社内で表彰しています。従業員が主体となって活動を実施することで、環境人材の育成と社会課題の解決に効果的であると考えています。
2022年度、グループ事業所では周辺の清掃活動や森林保全活動、環境教育等の取り組みが実施されました。

2022年度に実施・参加した主な社会・SDGs貢献活動（国内／環境分野）

地域社会と協働して、自然環境や生物多様性を守る活動を行っています。

SDGs	活動内容	目的	継続性	協働・連携先
15	「積水の森」整備活動（徳山積水工業）	森林環境を保全し、森林機能を高める	2000年～	NPO法人やまぐち里山ネットワーク
15	東北海岸林の再生活動「たねぷろじぇくと」（セキスイハイム東北）	地域植生の苗木で海岸林を再生する	2015年～	被災地里山救済・地域性苗木生産ネットワーク
13	松尾鉱山跡地での植樹活動（積水メディカル・岩手工場）	植樹を行い荒地を森林に再生する	2007年～	一般社団法人東北地域環境計画研究会
15	東山森林保全活動（京都研究所）	清掃活動や絶滅危惧種の植物を植栽し、東山の環境を保全する	2018年～	京都市、京都伝統文化の森推進協議会
15	「魚のゆりかご水田プロジェクト」（滋賀栗東工場、西日本積水工業 他）	琵琶湖で湖魚が産卵できる水田環境を取り戻す	2014年～	滋賀県農政水産部農村振興課、東近江市栗見出在家町
15	オオキンケイギクの駆除活動（セキスイハイム工業・関東事業所）	特定外来生物のオオキンケイギクを除去し、地域の生態系を保全する	2020年～	笠間市環境保全課、かさま環境を考える会
14	中海・宍道湖一斉クリーンアップ活動（積水成型工業・出雲工場）	清掃活動を行い、「中海・宍道湖」の環境を保全する	2006年～	島根県、出雲市 他
12	「千葉県まるごとゴミ拾い」清掃活動（積水成型工業・千葉工場）	清掃活動を通じてゴミの資源化と地域の環境美化に貢献する	2021年～	NPO法人まるごみJAPAN
4	かさまこども自然塾（課外授業）（セキスイハイム工業・関東事業所）	地域河川の生物調査と水質テストを通じて、子ども達の環境意識を向上させる	2006年～	笠間市立みなみ学園義務教育学校
4	ビオトープ自然観察会（課外授業）（九州積水工業）	場内のビオトープを活用した自然観察を行い、子ども達に自然環境と触れあう体験を提供する	2019年～	神埼市立千代田東部小学校
4	「潤いの森」生き物観察会（課外授業）（千葉積水工業）	地域の雑木林「潤いの森」での生き物観察を通じて、子ども達が自然の変化について学ぶ機会を提供する	2015年～	市原市立湿津小学校
4	豊橋こども自然塾／干潟保全と生物観察（セキスイハイム工業・中部事業所）	近隣の干潟での生き物観察と清掃活動を通じて、地域住民や子ども達とともにに環境問題への関心を高める	2003年～	豊橋市自然史博物館、トヨッキースクールおおさき

「子ども森づくり隊」活動を支援

【事業所】セキスイハイム中部グループ／愛知県名古屋市
【協働先】NPO法人なごや東山の森づくりの会
【目　的】・都市の里山を保全する
　　・子ども達の里山体験を支援する
【継続性】2017年より参画
【効　果】2022年度：3回開催、106名の子ども達が参加
【関連するSDGs】

名古屋市東山地区に残された貴重な里山環境の保全活動に取り組むNPO法人なごや東山の森づくりの会と協働して、地域の子ども達の参加する「子ども森づくり隊」活動を支援しています。

新町川の外来水草除去活動を実施

【事業所】四国積水工業株式会社／愛媛県西条市
【協働先】NPO法人西条自然学校
【目　的】在来種の水草を保全する
【継続性】2015年より活動開始、今後もNPOと連携して継続
【効　果】2022年度：2回実施、年間で1,458kgの外来水草を除去
【関連するSDGs】

地元のNPO法人西条自然学校と協働して、定期的に新町川で繁殖しているオオカワジシャやオランダガラシ、コカナダモなどの外来種の水草を除去することで在来種のエビモなどを保全しています。

海外グループの環境保全活動

SEKISUI EUROPE B.V.
SEKISUI ALVEO B.V.
SEKISUI POLYMATECH EUROPE B.V.
SEKISUI S-LEC B.V.
（オランダ）
4社合同で“Nature Working Day”を開催し、池や緑地の清掃やBio-hotel（生きものの生息空間）づくりなど、地域の自然環境に貢献する活動を実施しました。

【関連するSDGs】

次世代

主な取り組み

ものづくりや製品など、積水化学グループの特性を生かしたプログラムでSDGs目標4に掲げられた質の高い教育を提供し、生涯教育の機会を促進します。
次世代を担う子どもたちが健やかに成長できる社会を目指し、小中高、および大学生を対象に事業の特性を活かしたキャリア教育を実施しています。

子どもたちが健やかに成長できる地域社会づくりに貢献

次世代を担う子どもたちが健やかに成長できる社会を目指し、小中校および大学生を対象に、事業の特性を生かしたキャリア教育を実施しています。子どもたちが社会の一員として自立した生活を送ることにつながる知識、技術、考え方を習得するための取り組みとして行っているもので、積水化学の従業員による化学教室などの出張授業や当社の製品やものづくりからSDGsを学ぶオンライン授業など、さまざまな活動を進めています。

次世代教育の取り組み一覧

	活動名	目的	対象	連携先	役割分担	継続性	効果1（2022年度単年）（人数など）	効果2（2022年度実績を含んだのべ人数など）	発展性
1	新規 徳山積水 こども化学教室 （徳山積水工業）	次世代の子どもたちに化学の魅力を伝える	未就学児～小学生	地域の社会福祉協議会	主催	2022年～	83人	83人	継続的な実施 対象者・開催方法の確立
2	新規 夏休み 子ども大工教室 （九州セキスイハイム工業）	次世代の子どもたちの環境意識向上と職人の技の実践による文化的技能の継承	小学生	自治体	共催	2022年～	15人	15人	継続的な実施
3	「おしごとフェスタin大和郡山」への出展協力 （奈良積水）	子どもたちが職業体験をすることで、新しい知識、発見を得て、世の中にあるさまざまな職業・企業を知る	小学生	地域の工業団地、行政	共催	2019年～	272人	375人	継続的な実施
4	新規 小学校での 出張授業 （積水化学北海道）	子どもたちが「工場での仕事」から新しい知識、発見を得て、世の中にあるさまざまな職業・企業を知る	小学生	地域の小学校	主催	2022年～	42	42	実施対象校の拡大
5	電子教材 「EduTownSDGs」を活用したSDGs教育	次世代の子どもたちがものづくりを通じてSDGsを学び、社会課題の解決のために自ら考え、行動できる力を育成する	小学校高学年～中学生	教科書メーカー	・プラットフォーム構築 ・教材提供 ・アライアンス参加	2018年～	17,238ページビュー※ （※当社関連ページのみ）	58,386ページビュー※ （※当社関連ページのみ）	・企業アライアンスで複数企業と連携。今後も企業数を増やしていく ・Webコンテンツの一部を冊子化し、全国の小中学校への無償配布を継続 ・Webコンテンツのさらなる拡充

	活動名	目的	対象	連携先	役割分担	継続性	効果1（2022年度単年）（人数など）	効果2（2022年度実績を含んだのべ人数など）	発展性
6	新規 職場体験 （茨城セキスイハイム）	次世代の青少年が働くことの大切さを理解し、就業するために求められる知識や技能を身につける	中学生	地域の中学校	主催	2022年～	12人	12人	継続的な実施
7	SDGsを学ぶ オンライン授業	学校現場でニーズが高まるSDGsをテーマとして、当社ならではの知見を活かし、次世代の青少年の持続可能な社会づくりにむけた課題解決に必要な知識や行動力を向上させる	中学生	教育支援企業	主催 （教材提供と講師）	2021年～	121人	351人	・オンライン授業により、コロナ禍でも実施可能 ・運営体制の確立 ・令和4年度「青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞受賞
8	化学教室 プロジェクト （高機能プラスチックスカンパニー水無瀬事業所）	次世代の子どもたちの化学に対する興味、関心を向上させる	中学生	地域の中学校およびご要望頂いた中学校	主催	2008年～	1,687人	33,722人	・教員との協働 ・水無瀬研究員のサポート
9	理科授業 （四国積水工業）	次世代の子どもたちの理科に対する興味、関心を向上させる	中学生	地域の中学校	主催	2009年～	73人	875人 （2010年～）	継続的な実施
10	新規 インターンシップの受け入れ （積水化学北海道）	就業体験を通じて、仕事や企業、業界、社会への理解を深める	高校生	地域の高校	主催	2022年～	7	7	継続的な実施
11	SB Student Ambassador ブロック大会	SDGsをテーマとして、当社ならではの知見を活かし、次世代の青少年の持続可能な社会づくりにむけた課題解決に必要な知識や行動力を向上させる	高校生	イニシアチブ他企業	教材提供と講師	2020年～	111人※ （※当社講義の参加者）	269人※ （※当社講義の参加者）	実施エリアを地方にも拡大 （当社は東日本、西日本大会のみの参加）
12	英語教材への寄稿	英語で身の回りの製品を通じた企業のものづくりを紹介することで学生の英語力を培う。学生の就職活動やキャリア教育に繋げる	大学生	出版社	寄稿	2020年～	非公開	非公開	・大学の英語授業で本教材を活用 ・教材使用校の拡充

九州セキスイハイム工業株式会社の取り組み

夏休み子ども大工教室

九州セキスイハイム工業株式会社は、ものづくりを通じた次世代の子どもたちの環境意識向上を目的とした「夏休みこども大工教室」を鳥栖市まちづくり推進センターと協働で実施しました。屋外にあり、風雨で劣化したバス停のベンチを事業所のスタッフと地域の子どもたちで一緒に製作する活動です。

まずは地域の小学生にSDGsの17の目標や身近な生活との関わりについて教材を用いて説明した後、工場から出た廃木を活用してベンチを製作。木材をカットする作業は、子どもたちと事業所のスタッフが一緒に実施し、組み立てたベンチには、子どもたちが絵や文字を書き入れました。
そして完成したベンチは、老若男女が利用する住民センターのコミュニティーバスのバス停に設置しました。

子どもたちには、この活動を通じて、廃木を活用したベンチ製作（廃材を利用したものづくり）が、SDGs目標12「持続可能な生産と消費」や13「気候変動対策」につながることを知ってもらうことができました。
地域の公共機関（鳥栖まちづくり推進センター）と連携し、地域の子どもたちを対象にした、SDGs教室を開くのは初めての試みでしたが、事業所としても地域貢献かつ自社の環境活動において良い経験となりました。今回の経験を活かし、今後もより良い活動にしていきたいと考えています。

廃木を使ったベンチづくり（組立）

廃木を使ったベンチづくり（仕上げ）

完成したベンチに座って記念撮影

【関連するSDGs】

海外グループの次世代育成活動

SEKISUI KYDEX, LLC.（アメリカ）

地域の学生約70名が場内を見学しながら製造工程や
安全対策、デザイン、循環型設計など「モノづくり」
について学ぶ“Manufacturing Day 2022”を開催しました。

【関連するSDGs】

● 地域コミュニティ

主な取り組み

SDGs目標17に掲げられたパートナーシップを重視し、地域の自治体やNPO団体等と連携を図りながら活動を促進しています。

企業市民として持続可能な社会づくりに貢献

地域コミュニティの一員として社会貢献活動を積極的に展開し、持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。地域社会の抱える課題に対して理解を深め、課題の解決につながるよう、地域と協力した「安全・安心の街づくり」や地元小学校の課外授業の開催、開発途上国への支援プログラムなど、さまざまな取り組みを進めています。

2022年度に実施・参加した主な社会・SDGs貢献活動（国内／地域コミュニティ分野）

地域社会と連携して、持続可能な社会を目指す活動を行っています。

SDGs	活動内容	目的	継続性	協働・連携先
1	フードバンク支援 (積水テクノ成型・三重工場)	食品ロスを削減し、貧困家庭を支援する	2022年～	フードバンク多文化みえ
1	備蓄品の寄贈 (環境・ライフラインカンパニー 東北支店)	食品ロスを削減し、貧困家庭を支援する	2022年～	認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン
3	古着の寄贈「古着deワクチン」 (積水LBテック)	衣料の再利用と途上国の子どもたちへの医療支援	2021年～	日本リユースシステム株式会社、認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会
3	寄付型自動販売機を通じた医療支援 (積水メディカル・つくば工場)	世界の子どもたちの医療や衛生環境の整備等を支援する	2022年～	認定NPO法人ADRA Japan
4	古本による寄付「BOOK MAGIC」 (積水メディカル)	書籍の再利用と途上国の子どもたちへの教育支援	2021年～	特定非営利活動法人ジェン(JEN)
4	「滋賀県小学校ごみゼロ研究コンクール」支援 (滋賀栗東工場、滋賀水口工場、多賀工場)	持続可能な循環型社会を構築するため、次世代の子どもたちへの教育を支援する	2022年～	滋賀県小学校ごみゼロ研究コンクール実行委員会
8	交通安全啓発と社会福祉施設支援 (セキスイハイム工業・近畿事業所)	交通事故予防と障がいがある方の自立活動支援	2022年～	社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽの家、 奈良警察署
10	古本による寄付「チャリボン」 (東京セキスイハイムグループ)	書籍の再利用と犯罪被害者・家族への支援	2022年～	公益社団法人全国被害者支援ネットワーク被害者支援都民センター
11	防災イベントでの啓発活動 (東日本セキスイ商事)	災害に強いまちづくりのための、防災対策や地域連携への啓発	2022年～	川崎市(危機管理本部)他
11	自転車マナーアップと詐欺被害防止の啓発活動 (群馬工場、群馬セキスイハイム、セキスイボード・群馬事業所、東都積水、積水成型工業・関東工場/合同)	自転車交通事故の削減と詐欺被害防止への啓発	2022年～	群馬県警 前橋警察署、 太田警察署 他
12	使用済み切手等の寄付 (NTTデータセキスイシステムズ)	アジアやアフリカでの保険医療協力活動への支援	2022年～	公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会
12	「地産地消」活動 (多賀工場、積水多賀化工)	地元農産業の活性化支援と従業員の環境意識向上	2021年～	エームサービス株式会社

「セキスイハイム太陽光発電kidsニコニコプロジェクト」

【事業所】群馬セキスイハイム株式会社／群馬県前橋市
【協働先】前橋市、前橋市立第三保育所
【目　的】太陽光発電の売電益を活用して前橋市の子育てを支援
【継続性】2013年より実施
【効　果】2022年度：市内16カ所の公立保育所へ三輪車等を寄贈
【関連するSDGs】

2013年より太陽光発電の売電益を寄付し、市内の子育て支援をする官民共同事業を開始。地域住民の方々に環境問題への関心を高めていただくとともに園児達の知育活動を支援し、豊かな地域社会づくりに貢献していきます。

「フードドライブ」活動

【事業所】積水成型工業株式会社兵庫滝野工場／兵庫県加東市
【協働先】加東市社会福祉協議会
【目　的】生活に困窮する家庭を支援し、フードロスを削減する
【継続性】2022年度初めて開催（新規活動）
【効　果】2022年度：お米やレトルト食品などを寄贈
【関連するSDGs】

生活が困窮している世帯を支援しようと、事業所が従業員に呼びかけて食品を集めて地元の社会福祉協議会に寄贈しました。身近な活動ですが食品ロスも削減でき、今後も継続して実施していきます。

「TABLE FOR TWO」

従業員が参加しやすい社会貢献活動として、社員食堂の定食メニュー1食につき20円を寄付することで、開発途上国の学校給食を支援する活動「TABLE FOR TWO（TFT）」に協力しています。

【2022年度実績】

プログラム	実施事業所数	開発途上国支援給食数
TABLE FOR TWO(社員食堂)	11事業所	32,916食
TABLE FOR TWO対応型自販機	2事業所	4,431食(相当)

【協働先】特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International
【目　的】途上国の子ども達への食糧支援と先進国の生活習慣病の予防
【継続性】2008年より実施
【関連するSDGs】

中学生の職場体験学習(課外授業)

【事業所】東日本積水工業株式会社／群馬県伊勢崎市
【協働先】伊勢崎市立境南中学校
【目　的】中学生のキャリア形成（職業観、就業観の醸成）
【効　果】2022年度：中学２年生４名が３日間学習
【関連するSDGs】

中学生が地元の企業での職場体験（ものづくりや安全教育など）を通じて自身の職業観を醸成できるよう、課外授業の受け入れに協力しています。今後も地域の発展を支える人材育成に積極的に参画していきます。

小中学生向け図書の寄贈「徳山積水文庫」

【事業所】徳山積水工業株式会社／山口県周南市
【協働先】周南市立新南陽図書館
【目　的】SDGsや環境、情報関連など時世にあった図書を寄贈し、子ども達の読書活動を支援する。
【継続性】創立40周年の2004年より実施（寄贈19回目）
【効　果】2022年度：103冊の図書を寄贈（累計で2,873冊）
【関連するSDGs】

子どもたちをはじめ地域の方々に役立つように図書館の司書の方に本を選んでもらいます。寄贈した図書が子ども達の成長に役立ち、将来地域で活躍してくれる人材に育ってくれることを楽しみに貢献を続けていきます。

海外グループの地域コミュニティ支援活動

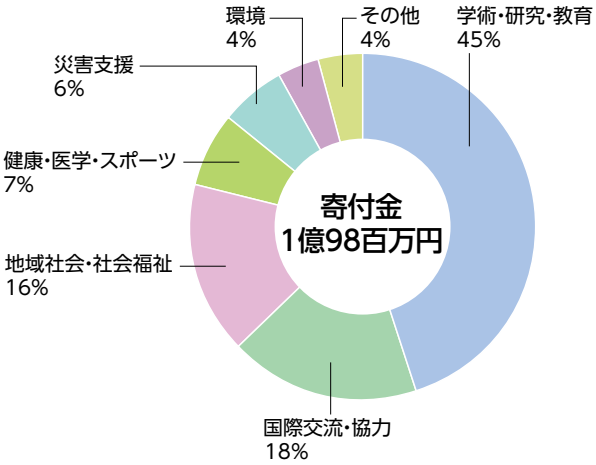
SEKISUI SPECIALTY CHEMICALS (THAILAND) CO., LTD.
（タイ）
会社での分別作業で集まったアルミ缶を義足の製作に役立ててもらおうと、従業員がアルミ缶を洗浄して平らに加工し、義足財団に寄贈しました。

【関連するSDGs】

パフォーマンス・データ

2022年度の寄付活動内容（積水化学グループ）

（単位：千円）

寄付の種類	総額
寄付金	198,356
従業員のボランティア	47,007
現物供与	3,982
管理経費	361

2022年度の現金による寄付の内訳